
君に気づいて

ブンゲー部

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君に気づいて

【Nコード】

N0777F

【作者名】

ブンゲー部

【あらすじ】

ある春の日、君に気づいてしまった。最初は、ただそれだけのことだった。

（前書き）

少し意味不明かも知れませんが

ホントは最初からいなかったのかもしれない。ただ、それに気づいてしまったら、すべてが消えてしまいそうで、怖かったんだ。

君に気づいたのは、春の日だった。白いワンピースを着た君は、なにをするでもなく、公園のベンチに座り空を眺めていた。いや、どこか、恨めしげに空を睨んでいたのかも知れない。なにがしたいのだろうか、と感じたが、ただそれだけだった。

それから長い間、君に気づくことはなかった。次に君に気づいたのは、季節が巡った春のことだった。

君はまた、公園で、白いワンピースを着て、空を眺めていた。君に気づくまで、まるでその存在を忘れていたのに、見つけた瞬間、君だと気づいた。

一目惚れならぬ、二目惚れだった。いや、一目で君が気になっていたが、声をかけることができなかったから、諦めてた。

運命とか偶然とか奇跡とか、そんなものを信じるようなロマンティストではないけど、なんとなくまた、君に気づけたことはなにかの始まりだと感じたんだ。どうしようもなく、君に気づいてしまった。

あれからもういくつの季節が巡っただろうか。あれ以来、君に気づくことは一度もなかった。

確かに、ただ気づいただけで、なにかあった訳じゃないから、それを裏切りとを感じるのは、お門違いなんだろうけど、それでも君に対して憤りを感じるのはなぜだろう。こんなにも君のことを想っているのに……。

君は一体、何者だったんだろうか。どんなに求めても、答えので

ない疑問。ただ、一つだけ確かなのは、君に気づいたってことだけ。でも、ホントに君はいたのだろうか。最初から、君はいなかったのかも知れない。ただの幻だったのかも知れない。ただそれを認めてしまえば……。

もうどうしようもない程に、君を忘れてしまいたかった。いつそ、君に気づかなければ、こんな想いもしなかったのだろうと、また君を責めてしまう。

どうせ、もう君に気づくことはないのだから、このまま、このまま、君を想い続けていよう。

きっとそれが私の罰なのだろうから……。

（後書き）

解説などは一切行わない予定です。これを読んで感じていただいたことが解説です。とお茶を濁します

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0777f/>

君に気づいて

2010年10月11日02時11分発行